

岩手大学 MDASH 応用基礎プログラム（人文社会科学部）
令和6年度 自己点検・評価結果について

● プログラムの履修・修得状況

本教育プログラムを構成している全学教養教育科目「情報基礎」は人文社会科学部1年生の必修科目となっており、全学生がプログラムを履修し始めている。令和6年度末現在、プログラムを履修している学生は、208名となっており申請対象学年を母数とすると99%の履修率となる。また、学生の履修状況（履修申告から課題の提出等）については、本学が導入しているWeb Class（LMS）を通して、科目を履修している担当教員及び岩手大学教学マネジメントセンター並びに学務担当が把握することができるシステムとなっており、各授業科目の習得状況やプログラムの改善等についての審議を行っている。

● 学修成果

「情報基礎」に対する授業評価アンケートでは全38項目の質問中、学生が学習の効果を回答する項目が4件法で9つ設定されている。質問「この授業でデータサイエンスという学問分野について興味・関心がより高まったと思いますか?」、「この授業を履修してよかったと思いますか?」では、ポジティブに回答（「そう思う」と「少しそう思う」）している学生が80%および94%となっている。これらの結果から本教育プログラムに対する学生の学修満足度は高いものと判断できる。

● 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

「情報基礎」では、前項目と同様のアンケート調査の結果、質問「この授業でデータサイエンスの概念や活用事例について理解が深まったと思いますか?」では91%、質問「この授業でデータの扱いや分析手法について身に付いたと思いますか?」では92%がポジティブな回答（「そう思う」と「少しそう思う」）となっている。これらの結果から本教育プログラムの内容理解度は高いものと判断できる。

● 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

「情報基礎」は、必修科目のため授業評価アンケートにて「後輩等に推奨したいか」という質問は設定していない。学修の更なる学びや有用感を問う質問項目のうち、「この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか?」の質問では93%の学生が「そう思う」と回答しており、「少しそう思う」を加えると97%の学生が「情報基礎」に対する有用感をもっている。これらのことから「後輩等他の学生への推奨度」については高い水準になることが期待できる。

- **全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況**

本教育プログラムを構成している「情報基礎」は必須科目であり、履修率は 99%である。

- **教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価**

本プログラムの修了生が卒業する令和 10 年度以降に、岩手県庁及び企業等への卒業生アンケート項目に本プログラムの効果を問う設問を用意して外部の評価を受けつつ、その結果を踏まえてプログラムの改善に役立てるプロセスを検討している。

- **産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見**

岩手大学では、例えば NTTdocomo、岩手日報社等様々な産業界の企業と連携協定等を締結して教育・研究を推進している。また、本学人文社会科学部では毎年 30～40%程度が公務員へ就職していることから、県や市との連携を活かして、本指導プログラムに対する意見を求めていく。今後もこのような多くのチャンネルを通して、産業界からの視点を含めた本プログラムの PDCA を推進していく予定である。

- **数理・データサイエンス・A I を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること**

授業評価アンケートを通じた後輩等他の学生への推奨度にて記述した内容に加え、「この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？」の質問に対して、ポジティブ（「そう思う」と「少しそう思う」）に回答している学生が 85%となっている。さらに質問「授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？」、「授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？」に対して、いずれも 90%の学生がポジティブに回答している。本結果から、数理・データサイエンス・A I を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることができていると推察される。

- **内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること**

アンケート調査の結果、質問「板書・ビデオ・プロジェクター・遠隔配信等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？」では 91%、質問「教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？」では 96%の学生がポジティブな回答（「そう思う」と「少しそう思う」）となっている。引き続き、Web Class（LMS）による事前資料配付等の充実を図る予定である。また、今後は急速に進展する生成 AI 等を素早く取り上げるため、教養教育に追加される「情報に係る選択科目」を活用するなど、本プログラムの充実を図ることになっている。